

のりまつ

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

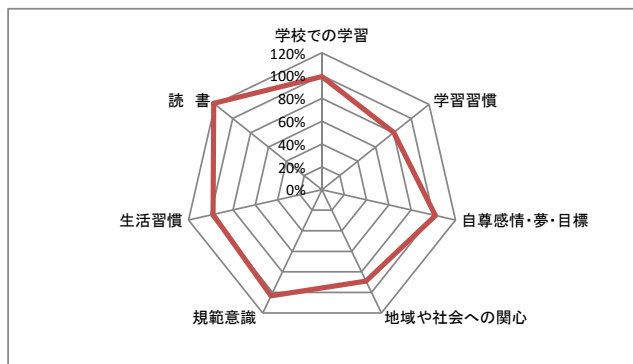
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・話す・聞く、読む能力が高い。特に言語についての知識理解・技能が高い。	同程度である
算数	全体的に上回っている。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ 学習中、「友達との話し合い」をよく行っていたと答える児童が多く、学校での学習に真面目に取り組んでいることが分かる。
 - ・ 宿題を毎日する児童は多いが、自分で計画を立て1日当たり1時間以上勉強をしている児童は少ない。
 - ・ 規範意識や自尊感情は高い。
 - ・ 地域や社会への関心がやや低い。
- このようなことから、正答率は向上しているものの学習習慣に課題があるといえる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 分かる授業の実施(めあて・ふりかえり)し、学びあう力を育てていく。
- ・ 朝自習・チャレンジタイムの時間を使って学力の定着に継続的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 家庭学習強化週間を設け、宿題・家庭学習の計画的な実施と定着を目指す。
- ・ 読書や学習習慣の大切さを通信や学級懇談会等で、今後も発信していく。